

赤あざ あから顔 の

## Vビーム レーザー治療

### はじめに

血管腫治療用レーザー「Vビーム\*」による、いわゆる「赤あざ」や「あから顔」のレーザー治療を希望される方を対象に作成されています。

毛細血管拡張症（「あから顔」）、莓状血管腫、単純性血管腫のレーザー治療についてご説明していきます。



### レーザーってなに？

レーザー光線は非常に強力なエネルギーを持つ光のことで、離れたところから照射してもエネルギーが弱まらないという特徴があります。どのようにしてレーザー光線で「赤あざ」や「あから顔」の治療を行なうのでしょうか？

オレンジ色のレーザー光は血の赤い色に大変良く吸収される特長を持っています。強いオレンジ色のレーザー光を肌に当てると肌を通りぬけて血管を流れる血に当たって熱を持ち、その熱を利用して血管をふさいでいきます。1回ですべての血管をふさぐことは出来ませんので、期間を空けて繰り返しレーザーを当てることで、血が流れにくくなり血管はだんだん目立たなくなります。

### 毛細血管拡張症（「あから顔」）について

様々な原因によって、お顔がぼんやりと赤く見えたり、血管がハッキリと透けて見えたりしている状態です。年齢と紫外線の影響で、より目立ってくると言われています。



治療前



治療後

### 単純性血管腫ってどういう病気？

ポートワイン母斑とも言われる「赤あざ」のひとつで、肌の表面近くにある血管（毛細血管）が拡張してさらに増えている病気です。生まれつきのもので、その後時間が経っても自然に消えないといわれています。大人になると、その部分が濃くなったり、盛り上がったたり、デコボコしたりすることがあります。



治療前



治療後

### 莓状血管腫ってどういう病気？

乳児血管腫とも呼ばれる「赤あざ」のひとつで、肌の表面近くにある血管がたくさん増えている病気です。生後1カ月ぐらいから出てきて、その後盛り上がってきて、表面がイチゴのようになります。自然に消えることが多く、7歳頃までに75%の人で消えるといわれています。ただ、色だけでなく、盛り上がりや肌のたるみ、質感の違い、キズあとが残る場合があります。なるべく早期（生後1ヶ月からでも可）にレーザー治療を開始することをおすすめしています。



治療前



治療後

レーザー治療による副作用は、赤くなったり腫れたり、時には内出血（紫斑）などがみられますが1、2週間でほぼ消えます。治療には健康保険が適用できますが、一部自費診療になる場合もあります。詳しくは、当院にてご相談下さい。



KOBAYASHI  
SKIN CLINIC

小林皮膚科クリニック

皮フとビタミン研究所

電話 06-6394-3200 までお気軽にお問い合わせ下さい。